

越前市環境基本計画【概要版】

I. 計画の基本的事項

(1) 計画改定の背景と目的

本市では平成19年度に「越前市環境基本計画」を策定、平成28年度には改定を行い、先人が守り育ててきた本市のすばらしい環境をさらにより良い形で次の世代に継承するための取組みを進めてきました。

一方で国際目標である持続可能な開発目標(SDGs)やパリ協定の実現に向けた機運が高まる中、本市においては脱炭素社会の構築に向け、令和3年8月には2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す「越前市ゼロカーボンシティ宣言」を表明するなど、未来の越前市を大きく変える取組みが動き出しています。

本市では、こうした社会情勢の変化や本市の環境の現状を踏まえ、今後の取組みや方策を示した越前市環境基本計画(以下、「本計画」という。)への改定を行うとともに、脱炭素社会の実現を重点項目として位置付け、市民・事業者・行政が一体となり進めていきます。

(2) 計画の期間

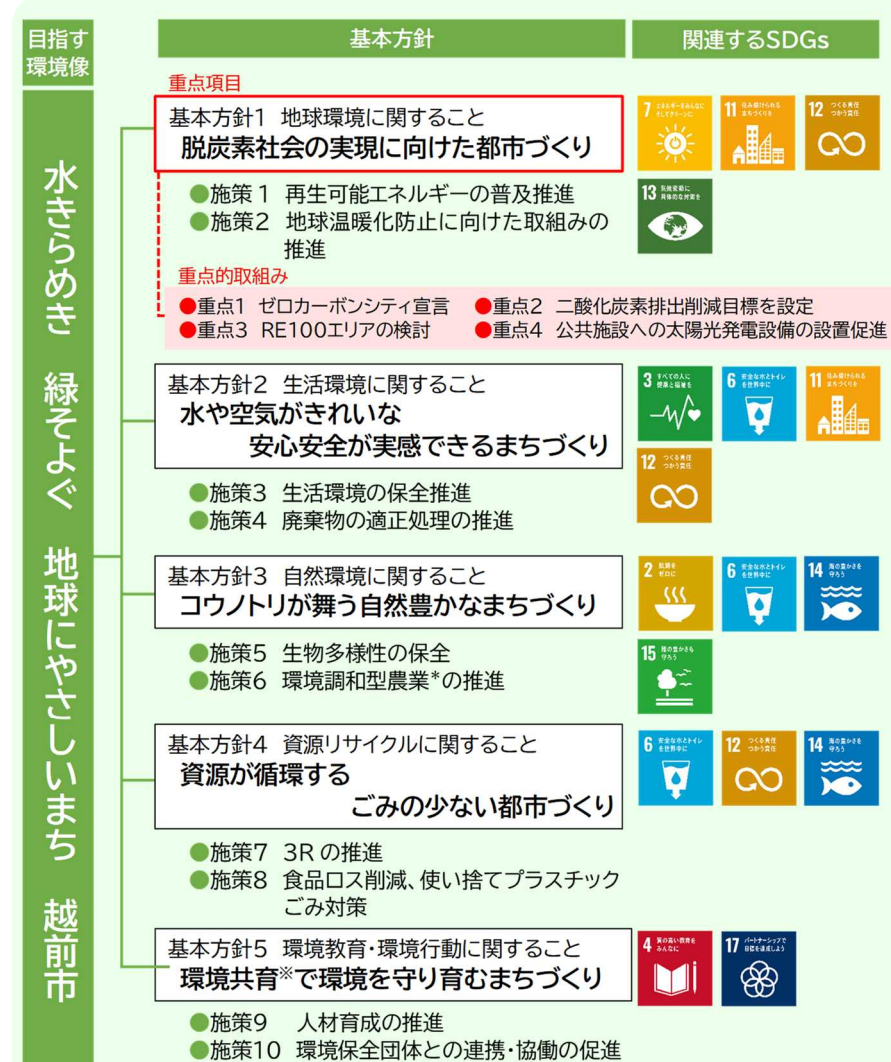
本計画の計画期間は、令和4年度から令和8年度までの5年間とします。

II. 計画の理念と目標

(1) 基本理念

本計画の改定にあたっては、「越前市環境基本条例」に掲げる5つの基本理念を踏まえています。

(2) 目指す環境像と計画の体系



越前市の目指す環境像を実現するため、計画の柱となる5つの基本方針を示します。5つの基本方針のうち、地球環境に関する基本方針1「脱炭素社会の実現に向けた都市づくり」を市全体で重点的に取り組む「重点項目」として定め、取組みを推進します。

また、この実現に向け、行政が重点的に進める具体的な取組みを「重点的取組み」として整理しています。

SDGsと環境基本計画

本計画では、SDGs実現を目指す視点を踏まえて施策を推進します。



上記は基本方針の実現につながるSDGsのゴールのアイコンを示しています。

*「共育」とは、様々な主体が対等な立場で学びあい、共に育みあうことを意味します。

III. 施策の展開

基本方針1 脱炭素社会の実現に向けた都市づくり

● 施策1 再生可能エネルギーの普及推進 ● 施策2 地球温暖化防止に向けた取組みの推進

市民の取組み例

- 家庭でできる「10の取組み」を実践 ⇒裏面を参照
- 再生可能エネルギー設備及び蓄電池の導入に努める
- 新築又は改築時にZEH(ゼッチ)を検討
- 「COOL CHOICE※」を実践

事業者の取組み例

- 再生可能エネルギー設備及び蓄電池の導入に努める
- 再エネ由来電気の購入を検討
- 新築又は改築時にZEB(ゼブ)を検討
- 「COOL CHOICE」を実践

行政の取組み例

- 重点的取組みの実践 ⇒下記参照
- 再生可能エネルギーの導入を啓発・促進する
- 電気自動車、燃料電池自動車の導入及び導入を啓発・促進する
- 「COOL CHOICE」の普及啓発

※「COOL CHOICE(クールチョイス)」とは、温室効果ガスの排出量削減のために、脱炭素社会づくりに貢献する「製品への買換え」、「サービスの利用」、「ライフスタイルの選択」など地球温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」をしようという国の取組み。

● 重点的取組み

重点1：ゼロカーボンシティ宣言

国内外の脱炭素社会の実現に向けた意識の高まりを受け、本市では令和3年8月に「越前市ゼロカーボンシティ宣言」を表明しました。

目標達成に向け、市民・事業者・行政が一体となって二酸化炭素の削減に取り組めます。

市ホームページや広報紙などを活用し、「越前市ゼロカーボンシティ宣言」の周知を行うとともに、市民や事業者に対して脱炭素化に向けた取組みへの協力を呼びかけます。

重点3：RE100エリアの検討

北陸新幹線越前たけふ駅周辺において、企業が事業活動に必要なエネルギーを全て再生可能エネルギーで賄うことを目指すモデル区域「RE100エリア」の設置を検討します。

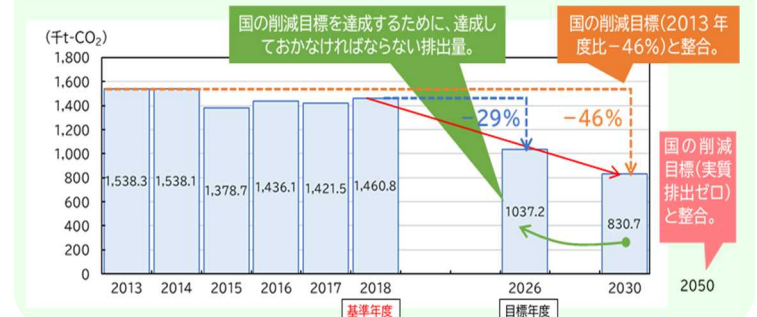


新たなまちづくりを目指す北陸新幹線越前たけふ駅周辺

重点2：二酸化炭素排出削減目標を設定

国が「2050年カーボンニュートラル」を実現することを前提に、具体的な削減目標を掲げ取組みを進めます。

目標年度：令和8年度(2026年度)
 基準年度：平成30年度(2018年度)
 削減目標：-29%(基準年度比)



重点4：公共施設への太陽光発電設備の設置促進

脱炭素社会の実現に向けて、令和12年までに、設置可能な公共施設数の50%に太陽光発電設備導入を目指します。



太陽光発電設備が設置されているエコビレッジ交流センター

基本方針2 水や空気がきれいな安心安全が実感できるまちづくり

●施策3 生活環境の保全推進

●施策4 廃棄物の適正処理の推進

市民の取組み例

- ごみを捨てるときはルールを守り、決められた方法で出す
- 生活排水による水の汚れの防止に努める
- 地域の清掃・美化活動に積極的に参加

事業者の取組み例

- 地域の清掃・美化活動に積極的に参加する
- 生活環境に関する法令を遵守
- 行政または周辺住民との環境保全協定の締結を検討
- 事業所ごみは、法に基づき適正に処理

行政の取組み例

- 大気や水質などを定期的に調査・観測を実施し、結果を公開
- 監視カメラの設置による監視体制の強化や不法投棄防止看板の設置
- 町内会などが行うごみ拾い等の清掃活動の支援・協力



基本方針3 コウノトリが舞う自然豊かなまちづくり

●施策5 生物多様性の保全

●施策6 環境調和型農業の推進

市民の取組み例

- 自然環境学習ができる施設や農業体験、その他自然散策などにより、積極的に自然環境と直接ふれあう
- 環境調和型農業の実践に努める
- 地産地消や食育の取組みに参加・協力する

事業者の取組み例

- 自然環境や周辺の景観に配慮した事業活動や土地利用を行う
- 希少野生生物の保全活動に積極的に参加する
- 地元の農産物を活用した商品の開発やブランド化、販売等を進める

行政の取組み例

- コウノトリが舞う里づくりを通じて、優れた里地里山環境を保全
- 「いのち」を大切にする意識の醸成に努める
- 環境調和型農業の普及を進める
- 食育の普及を進める



基本方針4 資源が循環する ごみの少ない都市づくり

●施策7 3Rの推進

●施策8 食品ロス削減、使い捨てプラスチックごみ対策

市民の取組み例

- ごみの分別を徹底する
- 「おいしいえちぜん食べきり運動」や「フードドライブ」に協力する
- 使い捨てプラスチックの使用を控える
- リサイクルショップやフリマアプリなどを活用し、再使用に心がける

事業者の取組み例

- 廃棄物の適正な分別、処理や減量化を徹底
- 再生品やリサイクルが容易な資材を活用する
- 使い捨てプラスチック製品の使用削減に努める

行政の取組み例

- ごみの分別方法の周知やごみの分別・減量への意識向上を図る
- 「おいしいえちぜん食べきり運動」や「フードドライブ」の実施を強化
- 海洋プラスチック汚染問題に関する正しい知識の普及に努める



基本方針5 環境共育で環境を守り育むまちづくり

●施策9 人材育成の推進

●施策10 環境保全団体との連携・協働の促進

市民の取組み例

- 環境に関心を持ち、積極的に情報を収集する
- 市政出前講座などを活用し、環境について知識を深める
- 環境に関するイベントやボランティア活動に積極的に参加・協力する

事業者の取組み例

- 環境に関するイベントやボランティア活動に積極的に参加・協力する
- 社内で環境に関する情報の共有や研修会などの開催に努める
- 地域と連携を図りながら環境保全の実践に努める

行政の取組み例

- 幼稚園や小中学校での環境教育を進める
- エコビレッジ交流センターを活用した環境学習・情報発信を進める
- 市政出前講座を実施し、市民・事業者の環境意識の啓発を図る

世界的な異常気象の原因とされる地球温暖化を食い止めるには、温室効果ガスである二酸化炭素の排出量を限りなく減らすことが必須です。

二酸化炭素は、発電所や工場からだけでなく、私たちの普段の生活からも多く排出されています。この「10の取組み」は、そんな普段の生活を少し変えるだけで排出量を削減できる取組みです。次の世代に美しく豊かな地球環境を引き継ぐため、私たちができることを今すぐ始めましょう！



- ①暖房の温度を1度低く、冷房の温度を1度高くカーテンで太陽の光を調整したり扇風機を上手に使うほか、着るものを工夫して過ごしましょう。
- ②石油ファンヒーターの使用時間を1日1時間減らす
着るものを工夫して、必要な時だけつけましょう。
- ③電気カーペットの設定温度を「中」にする
電気カーペットの下に断熱マットを敷いたり、カバーをかけるなど工夫しましょう。
- ④衣類乾燥機を使う時は自然乾燥を併用する
衣類乾燥機は、自然乾燥をした後、補助的に使いましょう。

みんなで止めよう 地球温暖化！

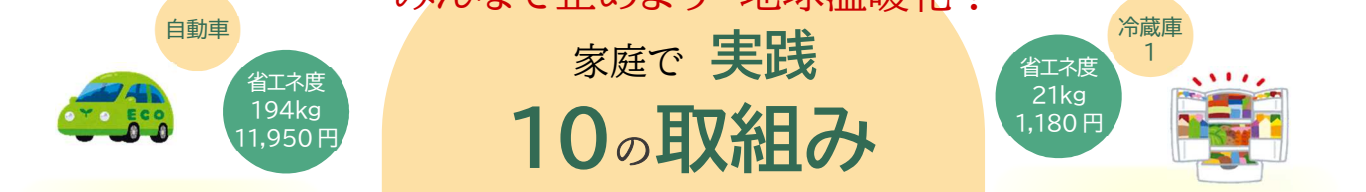
家庭で 実践

10の取組み

～脱炭素社会の実現のために～

資源エネルギー庁が提唱している「無理のない省エネ節約」から抜粋しています。

※緑丸内の数字は、1年分のCO₂削減量と節約金額の目安を示します。



- ⑤ふんわりアクセルでゆっくり加速
車の発進は、できるだけゆっくり加速し、加減速の少ない運転を心がけましょう。
- ⑥冷蔵庫に物を詰め込みすぎない
冷蔵庫の中を整理し、物を詰め込み過ぎないようにしましょう。



- ⑦入浴は間隔をあけずすぐ入る
お湯が冷めないうちに、家族みんなで間隔をあけずお風呂に入りましょう。
- ⑧ポットや炊飯ジャーを使わないときは、プラグを抜く
ポットや炊飯ジャーの保温は利用時間が長いので、多くの電気を消費します。
- ⑨野菜の下ごしらえに電子レンジを利用する
調理の時間短縮のほか、ビタミンCの損失が抑えられます。
- ⑩冷蔵庫の設定温度を「中」にする
食品が傷みにくい季節は、庫内の温度を控えめに設定することで、消費電力を抑えましょう。



家庭でできる10の取組みを全て行えば、1年間で**763kg**のCO₂を削減し、**44,340円**の節約につながります。脱炭素社会の実現に向けて、みなさんご家庭で実践してみてください。